

CIS

株式会社シーアイエスの 環境保全への取組

CIS Corporation 環境報告書2022

<https://www.ciscorp.co.jp/>

CIS

目次

1. 会社概要
2. 環境方針
3. 環境マネジメントシステム
 1. 環境保全体制
 2. 当社と環境とのかかわり
4. 環境保全への取組
 1. 2022年度行動計画と実績
 2. 2022年度環境データ（1）
 3. 2022年度環境データ（2）
 4. 2023年度行動計画
5. コミュニケーション

CIS 会社概要

- 社名 株式会社シーアイエス
- 代表取締役 村岡 祐輔
- 創立 1978年9月1日
- 売上高 22億8千万 (2022年8月)
- 社員数 94名 (2022年9月時点)
- 業種 産業用カメラ、イメージングシステムの開発、製造、販売

■ 所在地

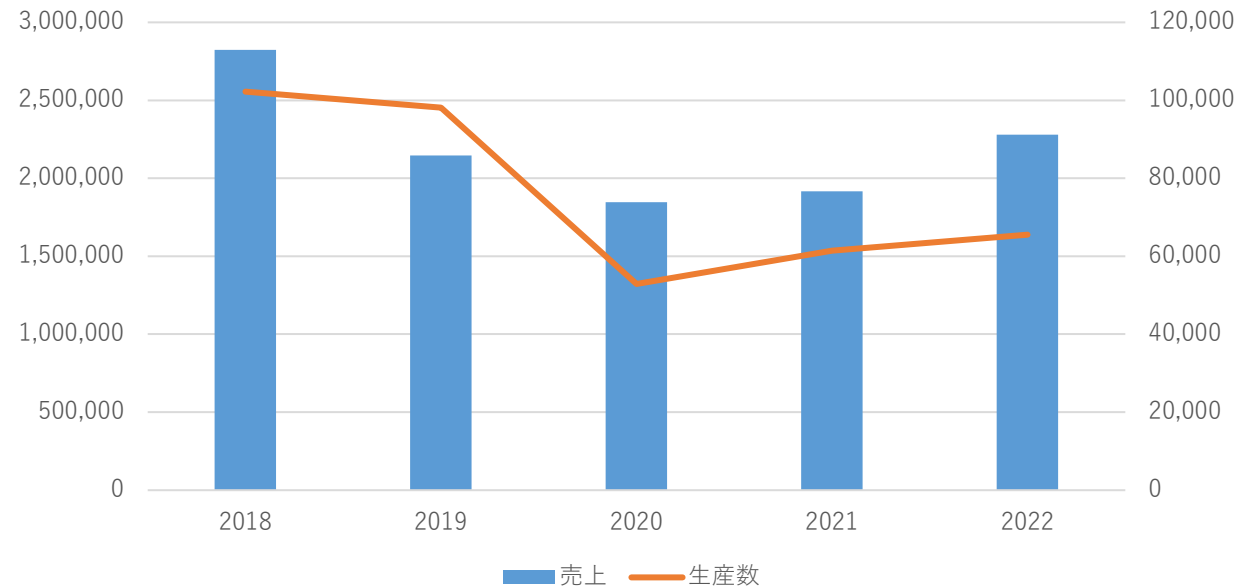
【本社・工場】

〒193-0834

東京都八王子市東浅川町539番地の5

TEL 042-664-5535 (代表)

売上高の推移



CIS 環境理念及び方針

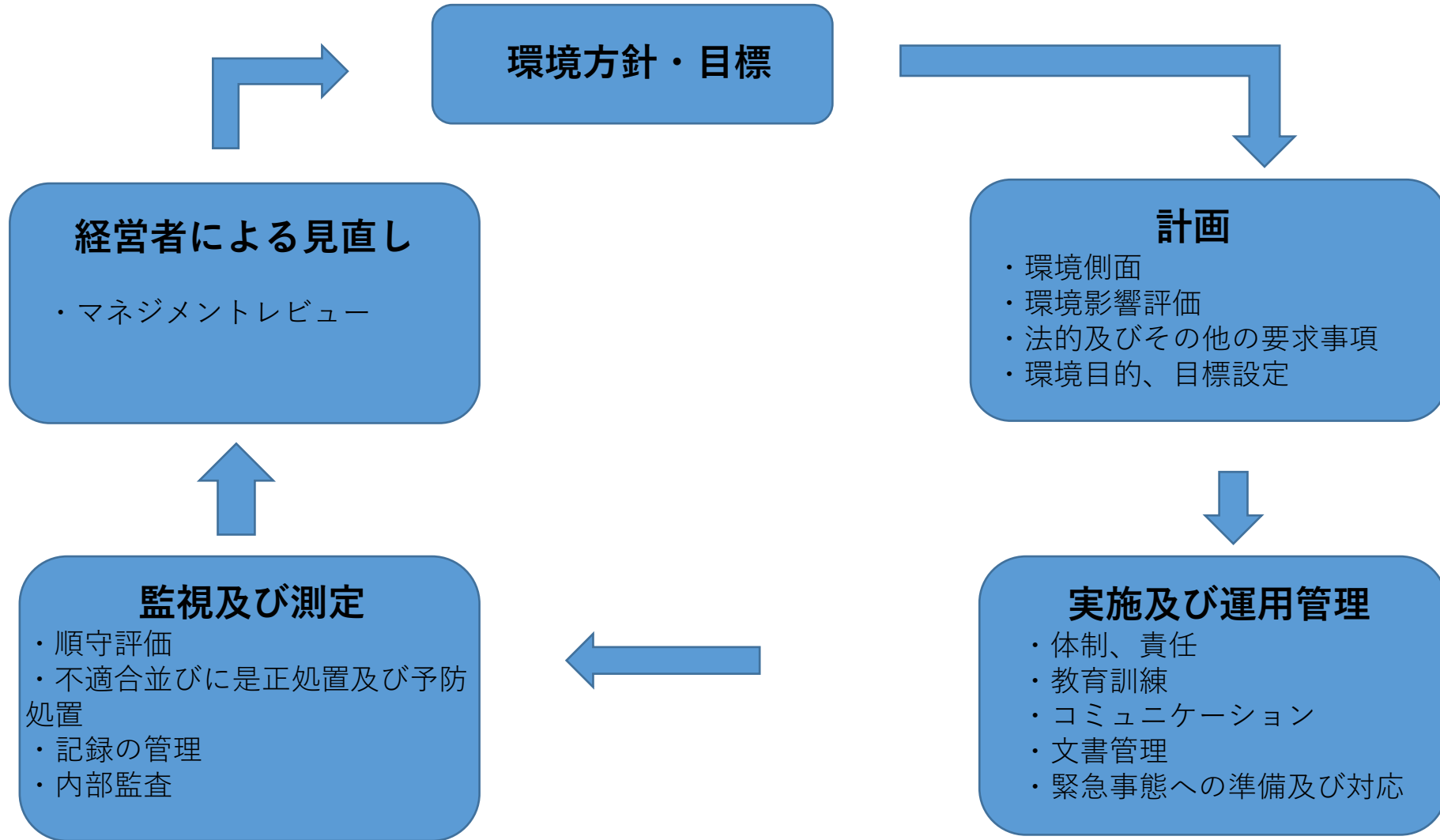
株式会社シーアイエスでは「地球環境を維持向上させ次世代へ引き継いでいく」ことを理念として環境保全活動に取り組んでいます。

具体的には、地球環境に対する負荷低減のために、「環境保全に関する設計のための基準」を整備しております。また、回路の共通化、低電力製品の開発、部品点数の削減の推進を行い、環境配慮型の開発、製品化に注力しております。

環境方針	
1	環境保全に関する法令、顧客要求を遵守します
2	当社の事業活動が環境に及ぼす影響を調査・評価し、環境保全への阻害要因が認められる場合には、改善活動を実施します
3	定期的な内部監査、マネジメントレビューにより、環境マネジメントシステムの維持、強化に努めます
4	常に省資源、廃棄物・環境関連物質の削減及び汚染の予防に気を配り、環境の保全に努めます
5	当社の活動の生産物である製品に対し、環境に配慮したモノ創りを推進します

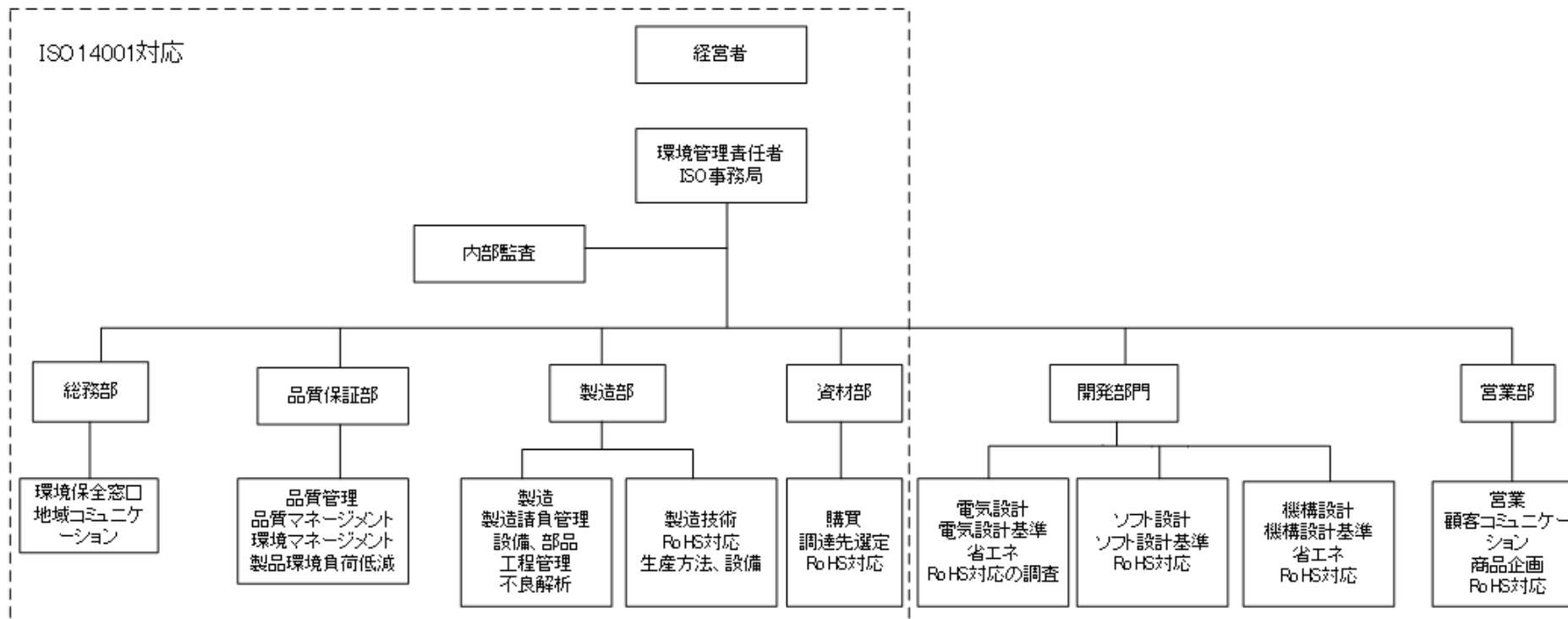
CIS

環境マネジメントシステム



CIS 環境保全体制

組織表



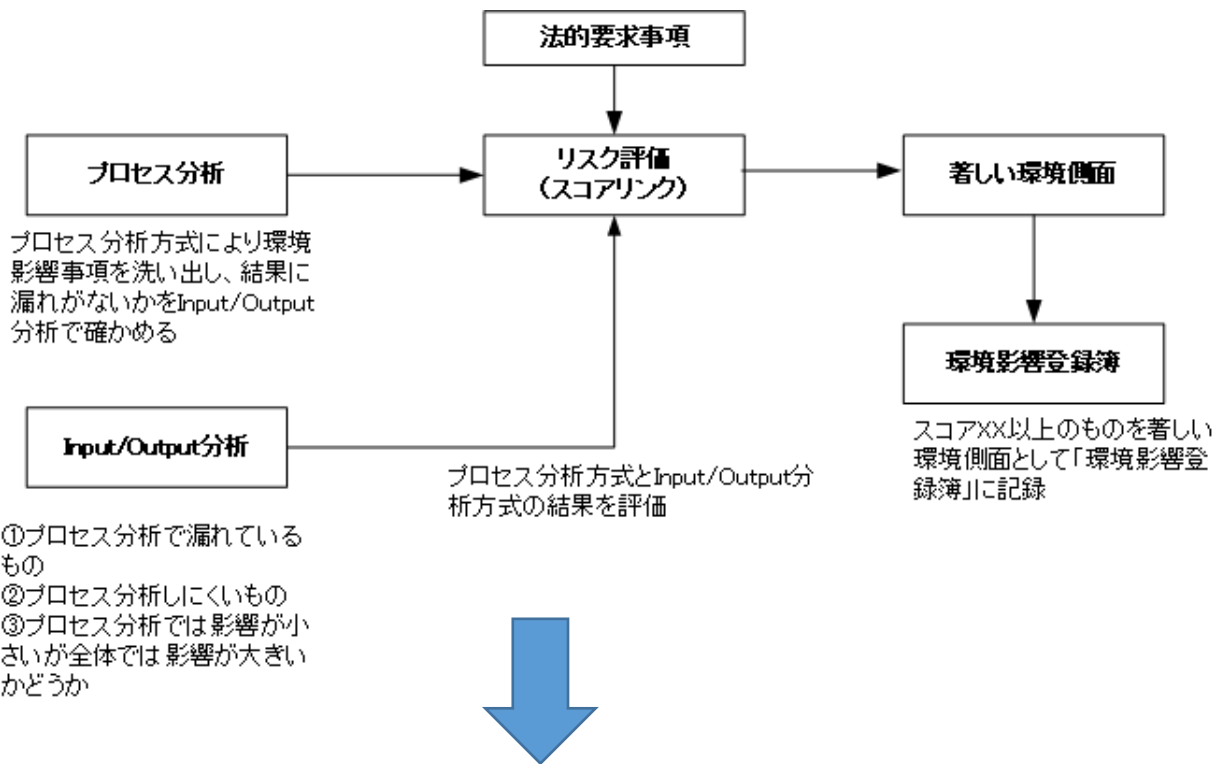
役割

- 環境保全組織は、環境マネジメントシステムに関する環境側面の特定、登録及び運用上の不適合その他環境に関わる全ての問題に対して、認識し、その是正処置に取組、改善を図る事にある。また、環境目標、年次行動計画に対する達成状況の確認を行います。
- 内部監査は、環境マネジメントシステムが適切に運用維持されている事を年1回監査し、不適合があれば是正、推奨事項を提議して、システムの向上を図ります

CIS 環境保全体制

コード No.	規制区分					規制名称	改定・改正日	規制事項
	法律	条例	業界	自社	海外			
① 大気汚染	○					大気汚染防止法	2022年3月	煤煙の排出規制
						大気汚染防止法施行令の一部を改正する政令	2022年4月	解体時における石綿の飛散防止のため、全ての石綿含有建材の事前調査結果報告の義務化。
		○				都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	2020年4月	不適合のディーゼル車の規制、排気ガス規制・エコドライブ推奨・低公害、低燃費車の導入
	○					自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	2007年12月	車種・総重量等によりNoxとPMの排出量が規制される。ガソリン車乗用車は対象外。
	○					PRTR法	2022年3月	令和5年515と134物質に拡大。有害性のある多種多様な化学物質で一種指定化学物質のいずれかを1年間に1以上取り扱う事業者が対象
	○					フロン排出抑制法	2020年4月	第1種特定製品(業務用エアコン・業務用冷蔵庫・冷凍機器)の触媒としてのフロン類の管理。(品証:恒温曹)※電動機定格出力が7.5KW以上のものの定期点検が必要。点検記録と引取証明書は廃棄後3年間保存。
② 水質汚染	○					水質汚濁防止法	2021年10月	特定施設を有する事業場(特定事業場)から排出される水について、有害物質と生活環境項目が設定。生活環境項目には1日の平均的な排水量が60.0m3以上の特定事業場に基準が適用される。

法的要求事項一覧表 (例)



著しい環境側面	環境影響	部門			
		総務部 情シス課	資材部 輸出管理部	製造部	品質保証部
電力消費	資源の枯渇・地球温暖化	○	○	○	○
廃棄物	土壌汚染・地球温暖化	○	○	○	○
紙消費	資源の枯渇・地球温暖化	○	○	○	○



環境保全への取組

2022年度 行動計画と実績

主な取組計画

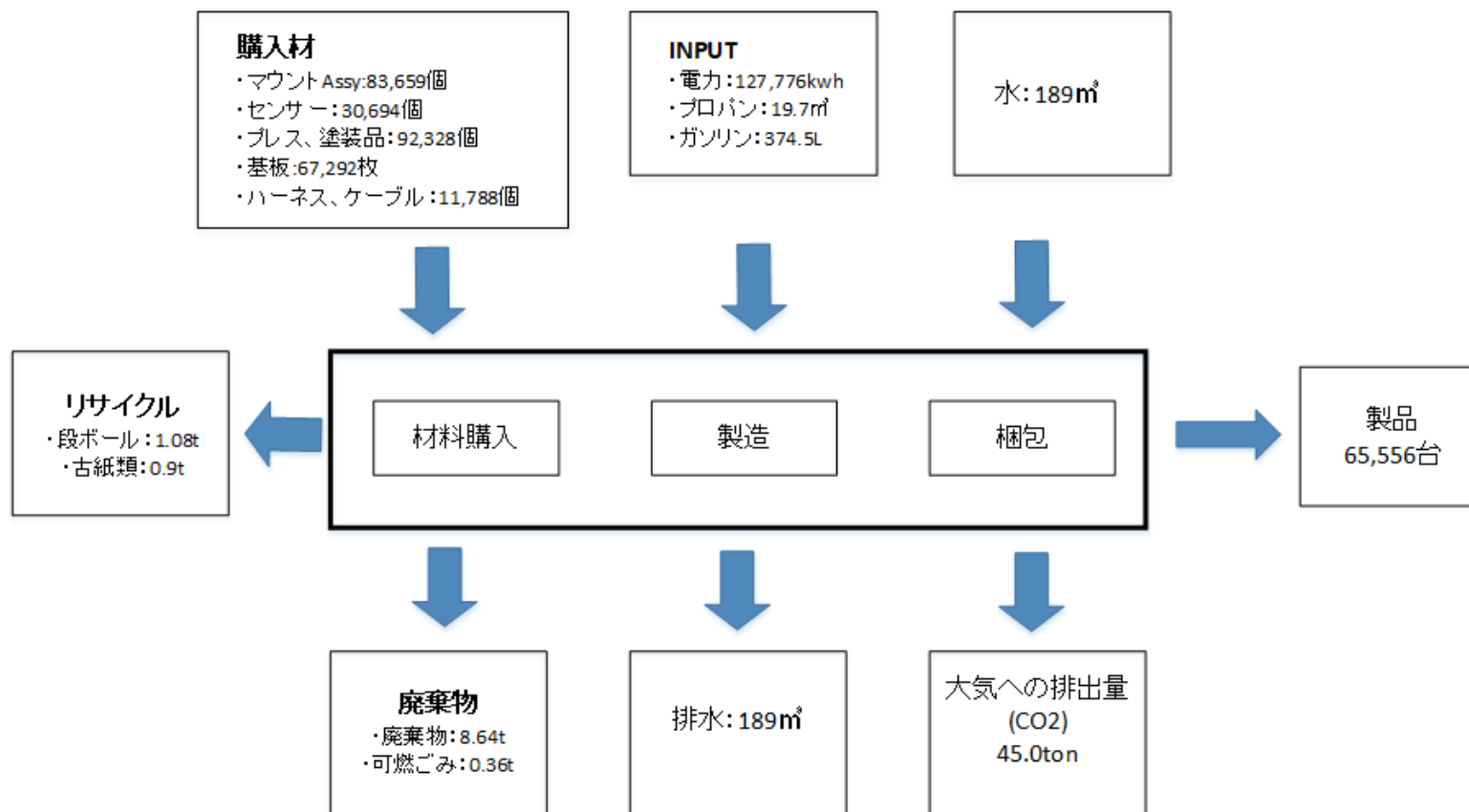
計画		対象/取組内容		実績	判定
品質	ユーザークレームゼロ	製品開発	プロジェクトの日程遅延を減らし早期完了・早期市場投入	プロセス監視シートによる確認	○
			日程遅れに対するリカバリを行い、遅延対応	TeamGantt等で日程を監視し2week以上の遅れに対し早急に対策、または優先度等によるやむなしの場合は認識の共有を図る	○
環境	法令(顧客要求)遵守	法令遵守	環境法令の発令について情報を入手し、適用遵守の為、社内対応	法的要求事項一覧表にて管理継続	○
	電力消費の削減	資源の枯渇	・使用量の監視を行い、最大電力の低減を行う(2021年最大電力60kwの5%減) ・省エネ型エアコンへの交換	・1月に54Kwに減少し、2022年8月では56Kwとなる ・5月に環境配慮型エアコンへの交換 ・4階のLED照明器具への交換	○
	紙資源の消費削減		目標紙使用量2500枚とし、社内業務の電子化の推進を行う	通期平均:2,787枚。月平均413枚が減少となり、取り組み継続	△
	製品への環境配慮		chemSHERPA 最新版対応	Ver2.05/2月リリース、2021年10月以降、顧客調査依頼に対応した	○
教育	ISO9001/14001/製品環境品質の部内業務関連	ISO9001、ISO14001の要求事項や各マニュアルに沿って、規定・要領の見直しと運用推進		内部・外部監査ならびにISO会議、マネジメントレビューを実施。ISO9001とISO14001の内部監査員の増員を実施	○
	質の向上	社内講習の実施			

2022年度環境データ (1)

当社が製品化するための、2022年のInput-Outputを下図で表しました

生産は、10%近く増加しましたが、環境配慮型エアコン、LED照明設備への切替により、電力消費量は減っています。

可燃ごみなどに含まれていた、紙類も分別によりリサイクルするようになっているので、廃棄物や可燃ごみは減少傾向にあります。



CIS 2022年度環境データ (2)

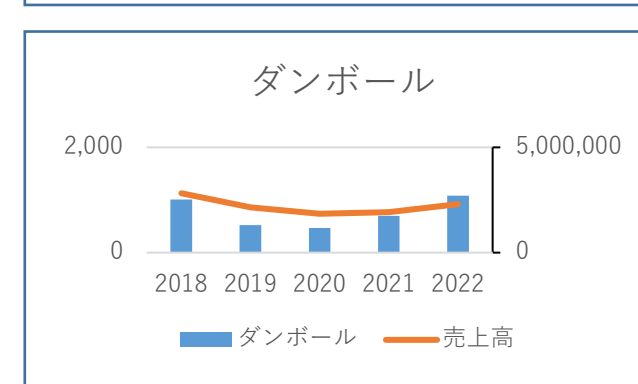
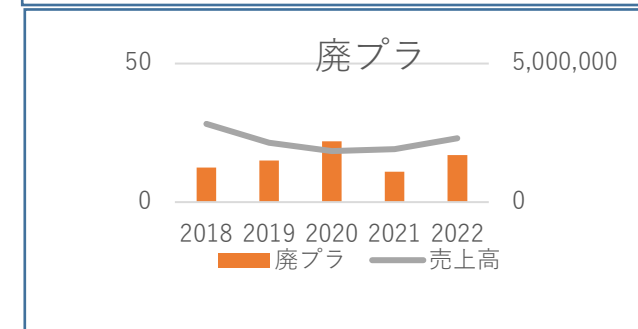
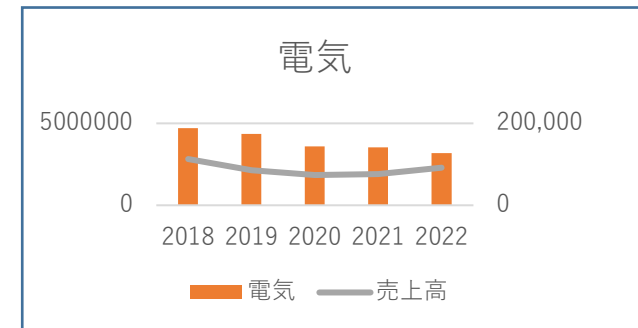
消費エネルギーの節減

2022年の電力使用量は、前年より10%程度減少しております。
日常的には、使用しない部屋の消灯や使用していない機器のコンセントを抜くなど、待機電力の削減も進めています。
また、フロアを含めた照明設備をLEDへの交換も進めております

今後は昨今のエネルギー状況を踏まえての削減検討も必要だと考えております。

廃棄物の削減

可燃、廃プラごみについては、処分方法を含め、社内にて講習会を開催して、分別を強化しており、削減傾向にはあります。
段ボールについては、納入時の業者等への返却や通い箱の利用を行っておりますが、部品購入の増大



2023年度主な取組計画

◇2022年度の結果をもとに、ISO14001の推進、製品環境化学物質管理の強化、法令遵守、人材育成に重点を置いて計画しています。

計画		対象/取組内容		実績
品質	ユーザークレームゼロ	製品開発	プロジェクトの日程遅延を減らし早期完了・早期市場投入	プロセス監視シートによる確認
			日程遅れに対するリカバリを行い、遅延対応	TeamGantt等で日程を監視し2week以上の遅れに対し早急に対策、または優先度等によるやむなしの場合は認識の共有を図る
環境	法令(顧客要求)遵守	法令遵守	環境法令の発令について情報を入手し、適用遵守の為、社内対応	法的要求事項一覧表にて管理継続
	電力消費の削減	資源の枯渇	<ul style="list-style-type: none"> ・使用量の監視を行い、最大電力の低減を行う (2021年最大電力60kwの5%減) ・省エネ型エアコンへの交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に54Kwに減少し、2022年8月では56Kwとなる ・5月に環境配慮型エアコンへの交換 ・4階のLED照明器具への交換
	紙資源の消費削減		目標紙使用量2500枚とし、社内業務の電子化の推進を行う	通期平均：2,787枚。月平均413枚が減少となり、取り組み継続
	製品への環境配慮		chemSHERPA 最新版対応	Ver2.05/2月リリース、2021年10月以降、顧客調査依頼に対応した
教育	ISO9001/14001/製品環境品質の部内業務関連	ISO9001、ISO14001の要求事項や各マニュアルに沿って、規定・要領の見直しと運用推進		内部・外部監査ならびにISO会議、マネジメントレビューを実施。ISO9001とISO14001の内部監査員の増員を実施
	質の向上	社内講習の実施		

CIS シーアイエスのSDGsの取り組み



社内講習会の充実



LED照明設備の導入
環境対応エアコンの導入



フルフレックスタイム制度導入
テレワークの導入
1時間単位での有給取得



産休・育休取得の支援
介護支援・時短正社員制度



製品への環境配慮



ペーパーレス化

CIS コミュニケーション

環境コミュニケーション

当社は、環境保全活動及び環境マネジメントシステムに関して、内部及び外部コミュニケーションを推進しております。

- ・ 部内会議等で社員の意思疎通を推進
- ・ 環境月報を毎月、社内サイトに掲示し、情報を発信
- ・ お客様からの情報による環境教育、グリーン調達活動の意識向上

苦情、事故の発生状況

行政への報告に該当する事故や行政罰などはありませんでした

発生内容	件数
臭気に関する苦情	0件
騒音、振動に関する苦情	0件
大気に関する苦情	0件
土壌に関する苦情	0件
水質に関する苦情	0件
地盤沈下に関する苦情	0件

環境教育

環境保全活動及び環境マネジメントシステムを推進するため、社員の意識向上を図ることが大切と考えております。2022年度も継続して、製品環境を含めた環境保全活動の教育をしてきました。SDGsの取組を含め、外部研修や内部での講習会を実施していきます。

地域活動

年末に高尾本社周辺の美化活動を行いました



リスクマネジメント

火事や震災など、自然災害に備えて、自衛消防隊を組織して、所轄消防署に避難訓練及び消火訓練の実施報告をしております。BCPの策定や震災などの大規模災害発生時の対応などの講習会を実施したり、水、食料などの備蓄を行うようにしています。